

令和 4 年 11 月 24 日

浜田市議会議長

定 年 様

議員名 牛 尾 昭

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 4 年 11 月 12 日 (土) 13 : 00 ~ 19 : 00

2. 研修内容

「地震のこころは怖がらなくて勉強しよう」

3. 研修先

日々に健全な森をつくり直す委員会。

4. 調査経費

1,000 円

(経費内訳 円 、 円)

5. 調査研究活動の概要

別紙にて。



オンライン講演会「地震のことは怖がらないで勉強しよう」

主催：日本に健全な森をつくり直す委員会

令和4年11月12日

開会挨拶：養老孟司

要旨：アメリカ人は移民を受け入れるけど、人間が細菌と共生しているという概念は20年間受け入れられなかった。ウクライナとコロナの共通性は、日常生活の破壊である。日常生活の継続だけでは、SDGsに反する。自給自足の小さなコミュニティが、それを可能にする。

来賓あいさつ：林野庁長官代理：林野行政部長橋氏。

要旨：平成14年に木材の自給率は18%だったが、現在は41%まで回復している。戦後の人工林造林事業が徐々に効果が出始めている。今後の人口減少を見据えた、木造建築の高層化を目指す必要が求められる。昨年度施行された、公共物への木造化の推進が、一般建築物まで拡がり、CRTなどが脚光をあびる。先進てきな企業のお蔭で、高層のビルに木材が多用されるようになった。

基調講演：静岡県立大学学長：尾池和夫

「美しい日本列島は地震とともに生きてきた」

高知の庄屋の家に生まれて、小さい時に南海トラフを経験した。夜中に起きると風景が変わっていて、土壁は崩れ、土蔵は倒れていた。高校生までいて、大学は京都へ出た。昨日、トンガでM7, 3の地震が起きて津波が来るかと思ったが来なかった。現在は静岡に住んでいるが、富士山の見える場所にカメラをおいて、必ず噴火する富士を、生きている間に捉えようと頑張っている。3, 11以来、富士山周辺地域は、群発地震が起きている。中村真人氏（西南学院大講師）によると、富士はいつ爆発してもおかしくないし、M10の可能性もある。とのことである。1923年の関東大震災以来、M3以上の地震は、日本で13万9千件起きている。富士山は出来たばかりの山で山体崩壊の恐れがあり、40万人が巻き込まれる恐れがある。対策は、地震火山庁の設置と地震火山予報士制度の確立と地震予知実用化が必要である。2038年に南海トラフ地震地震の起きる確立は高い。

リレーセッション—隈研吾氏（建築家）—中島健一郎（明光

建設社長) —大原栄博—濱田省司(高知県知事) —松本敏郎
(黒潮町長) —山本文明(四国銀行頭取) —尾池和夫(静岡県立大学学長) —小幡健太郎(NPO副会長)

考察、2038年南海トラフが起きる可能性は非常に高い。それは、富岳で過去のデータを全てシュミレーションしてみてもわかることであった。尾池和夫学長が言われるように、地震火山庁の設置と地震火山予報士制度の確立が出来れば、災害は、相当程度避けられる。早急な対策が必要で、人命に関わる一番大事な問題である。

以上、報告致します。牛尾昭。